



○ 絵本の世界から自分の生活へ

子どもは絵本に感動すると、周りに表現し、自分で確かめ、自ら学びはじめます。絵本を楽しむという事は、子どもの心が動くという事に他なりません。何かに感動したら、そのことは心に残ります。それを自分の体験に重ね合わせたり、絵本で知った知識を自分の目で確かめようとしたり、感動を誰かと共有しようとしたりします。

おもちゃで遊ぶことやわらべ歌、絵を描くことや外遊びなど、環境を通したなかで、子どもの成長に無駄なものはありません。そのなかでも、絵本の力は素晴らしいものがあると感じています。絵本をたくさん読んでもらった子どもは、きっと人の話を聞く耳が育っています。また、言葉を使って考える力、表現する力も育っています。このことが、小学校へ入ってからも、子どもの力になると期待しています。

